



 **和弘食品株式会社**

2022年3月期 第1四半期 決算説明資料



2021年8月11日
証券コード 2813



1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

株主・投資家の皆様へ

株主並びに投資家の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り、心より感謝申し上げます。この度の報告をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

創業以来、当社は「誠実」という企業信条のもと、持続的成長を目指し、積極的な成長投資や経営基盤強化に尽力して参りました。

そうしたなか、新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、経済活動が大きな打撃を受け、当社が主力とする外食市場も大きく落ち込みました。しかし、ワクチン接種が先行した米国では外食市場の回復が著しく、日本食、とりわけラーメンの需要は大きな伸びを見せております。

当社では2015年より米国子会社のWAKOU USA INC.がロサンゼルスに工場を稼働させ、カリフォルニア州を拠点として販路拡大に注力して参りました。前期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるロックダウン等が影響し、売上が急落した時期もありましたが、新たにデリバリー&テイクアウト市場が急成長してきたことに加え、ワクチン接種による経済活動再開により、第1四半期においてWAKOU USA INC.は創業以来の最高益を達成し、国内事業とともに当社の柱となる事業へ成長してまいりました。今後も販売力・生産力増強に向けて積極的に事業活動を行って参ります。

国内事業においては、緊急事態宣言の長期化等による影響が続いているものの、当社の強みである多品種小ロット生産がお客様のニーズに寄り添った商品提供を可能とし、順調に売上が回復しております。

当社は今後も国内のみならず、世界的に貢献できる事業活動を続けてまいります。その成果にご期待いただくとともに、末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。



(写真：WAKOU USA INC.)

1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

連結業績

・売上高	2,530 百万円	前年同期は2,083百万円
・営業利益	22 百万円	前年同期は▲236百万円
・当期純利益	12 百万円	前年同期は▲141百万円

和弘食品

- ・別添用、業務用ともに内食・中食市場向け商品の販売が好調
- ・不適合製品発生により、営業外損失を計上

WAKOU.USA

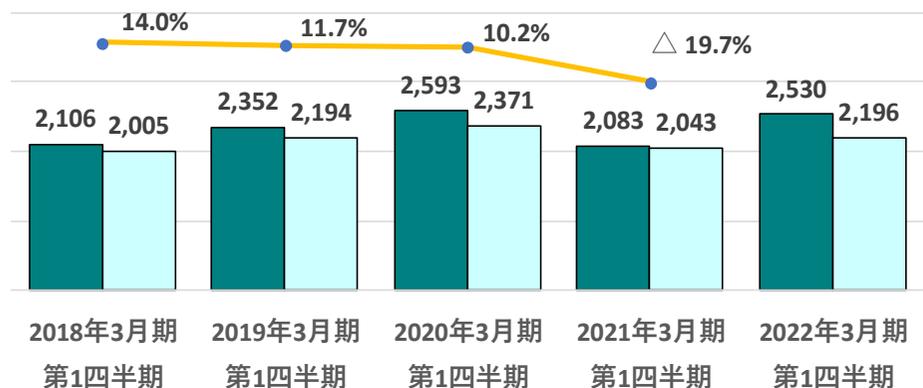
- ・昨年より好調だったテイクアウト&デリバリー市場の拡大に加え、ワクチン接種により経済活動規制や外出自粛が一部緩和されたことで、外食市場向け業務用調味料の需要が急増中。
- ・第1四半期において**創業以来最高の売上および利益を達成**

	2021年3月期 第1四半期決算	2022年3月期 第1四半期決算	前年同期比 増減額	(単位：百万円) 前年同期比 増減率
売上高	2,083	2,530	-	-
売上総利益	344	615	-	-
営業利益	△ 236	22	-	-
経常利益	△ 187	12	-	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	△ 141	12	-	-
1株あたりの 当期純利益 (EPS)	△ 173.4	15.7	-	-

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。このため、本資料の経営成績に関する説明の当第1四半期連結累計期間と比較した増減額及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

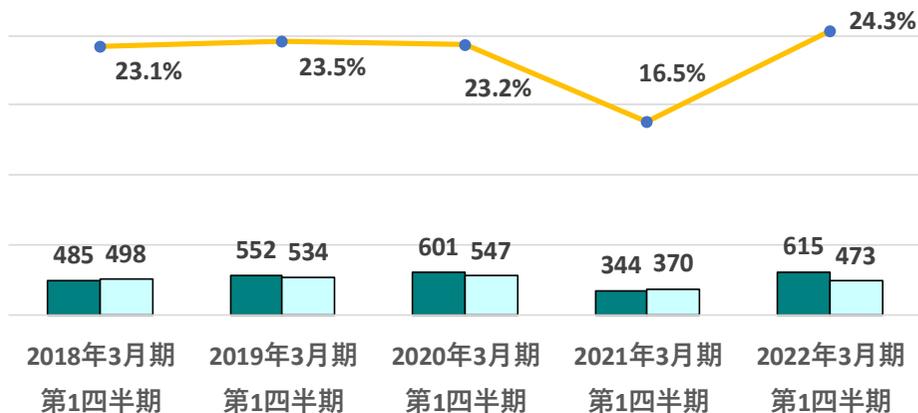
売上高推移 (連結・単体)

■ 連結 ■ 単体 ● 増減率 (連結) (単位: 百万円)



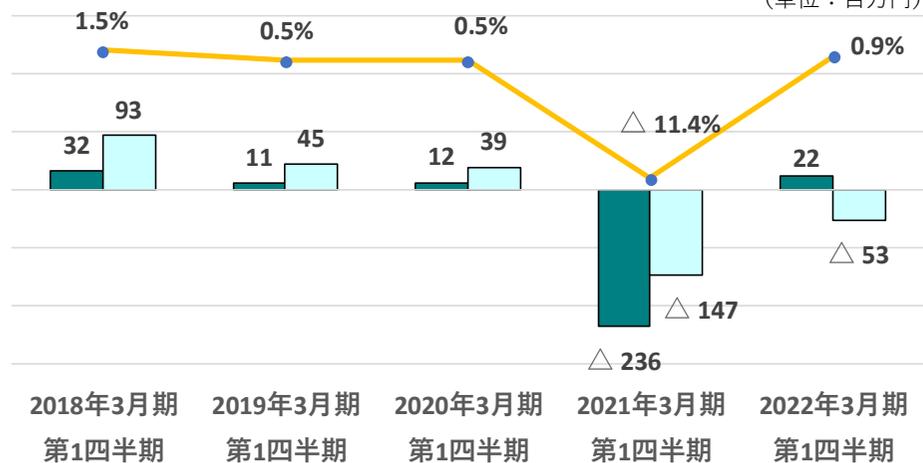
売上総利益推移 (連結・単体)

■ 連結 ■ 単体 ● 粗利率 (連結) (単位: 百万円)



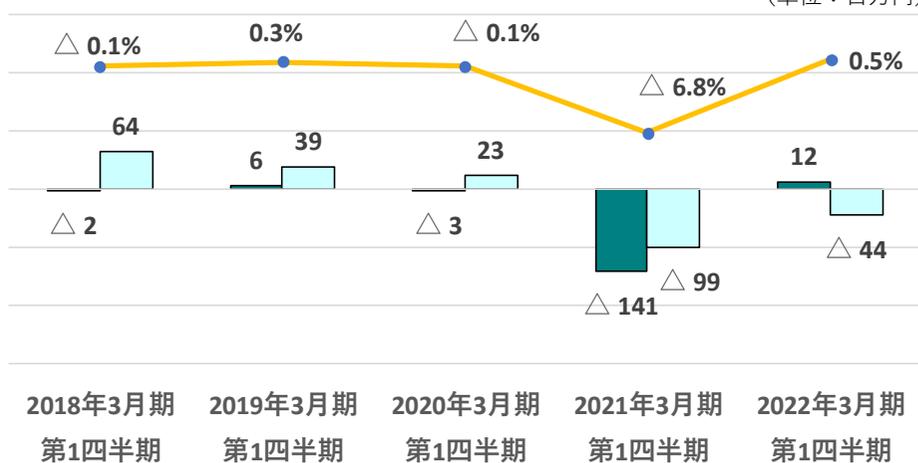
営業利益推移 (連結・単体)

■ 連結 ■ 単体 ● 営業利益率 (連結) (単位: 百万円)

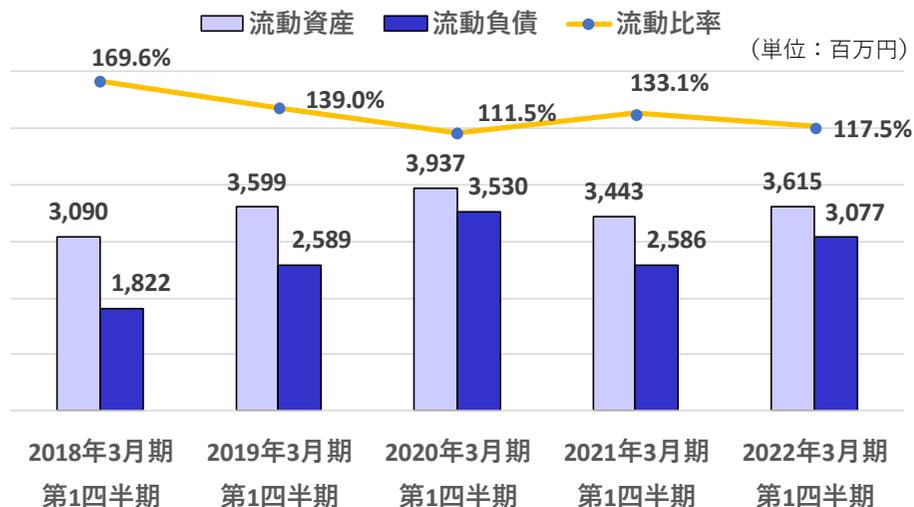


当期純利益推移 (連結・単体)

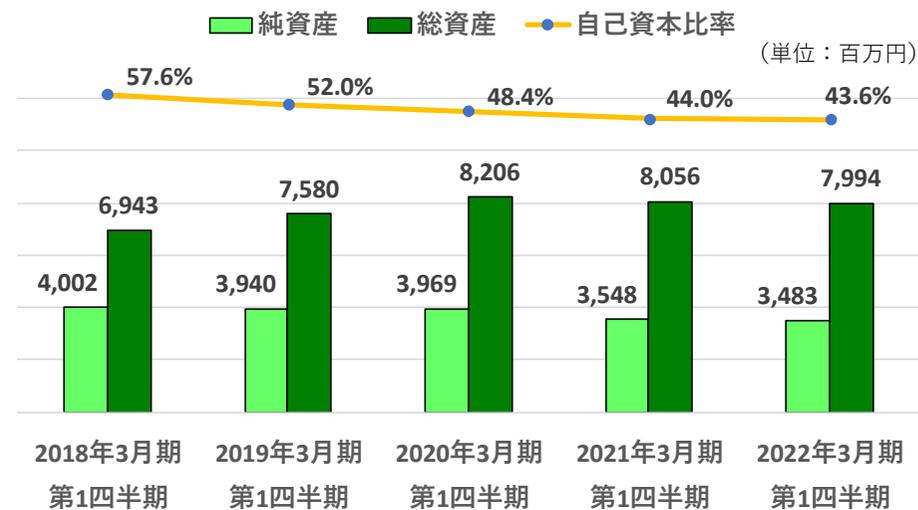
■ 連結 ■ 単体 ● 当期純利益率 (連結) (単位: 百万円)



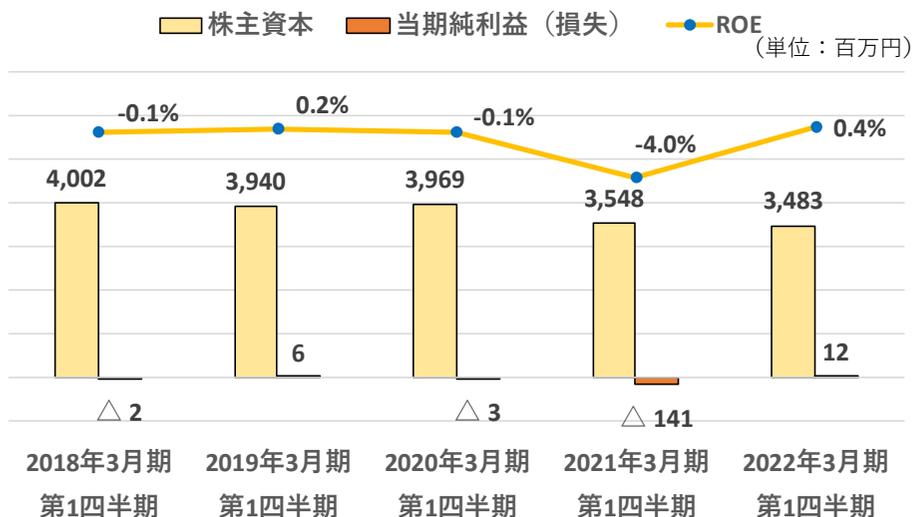
流動比率推移 (連結)



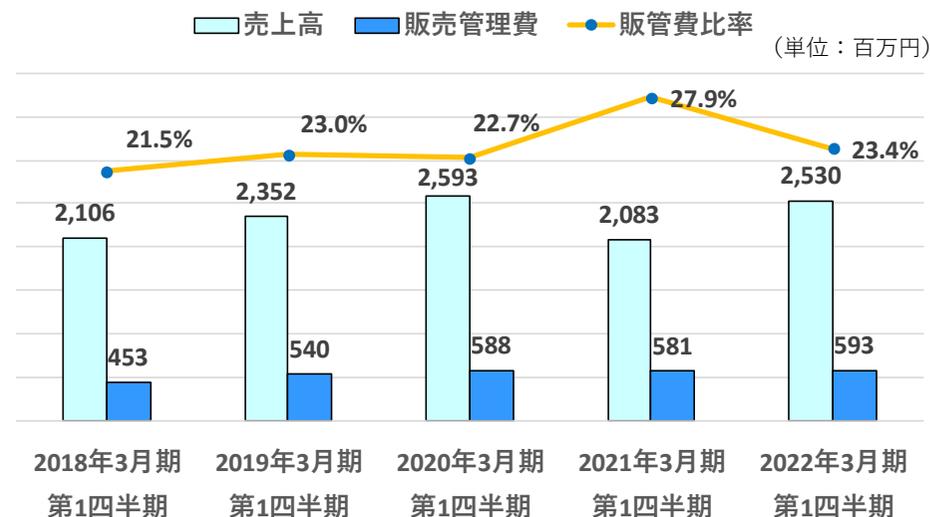
自己資本比率推移 (連結)



自己資本利益率推移 (連結)



販管費比率推移 (連結)



1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

● 業務用

(単位：百万円)

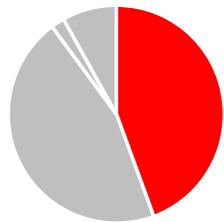
第1Q売上高

2020.4-6 930

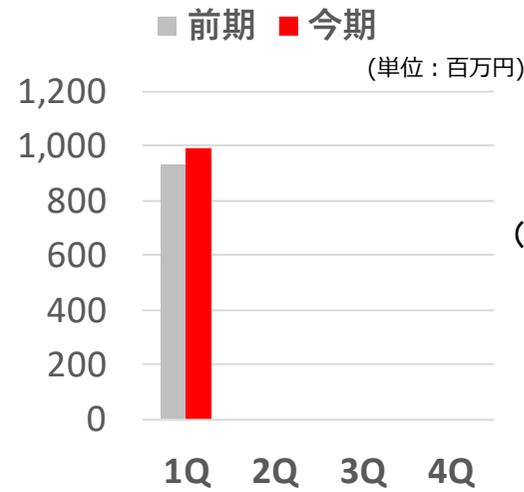
2021.4-6 993

増減

-



44.9%
売上構成比



・主にコンビニ向け、チェーン店向けの味噌ラーメンスープやWAKOU USA向けの特製黒マー油が好調に推移

(当社ブランド品 例)



濃厚味噌
ラーメンスープ



焼き味噌
ラーメンスープ



北海道エビ味噌
ラーメンスープ



十勝豚丼のたれ



北海道ザンギのたれ

● 別添用

(単位：百万円)

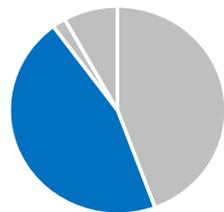
第1Q売上高

2020.4-6 941

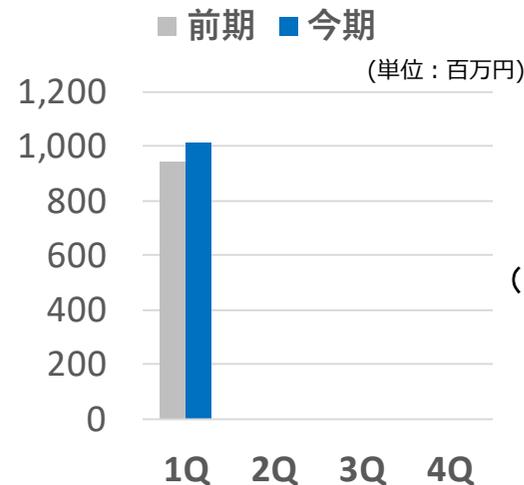
2021.4-6 1,011

増減

-



45.7%
売上構成比



・巣ごもり消費による購買機会の増加により、主に※PB製品の冷麺スープや豚骨スープの販売が好調に推移

(当社ブランド品 例)



醍醐味みそ
ラーメンスープ



冷麺スープ



ごま冷し
中華スープ



液体焼きそば
スープ



魚介濃厚だれ

※ PB・・・プライベートブランドの略。商品企画に合わせて当社でレシピ設計をした商品をお客様のブランド名で製品化し、販売することを言います。

● 天然エキス

(単位：百万円)

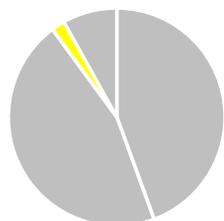
第1Q売上高

2020.4-6 35

2021.4-6 45

増減

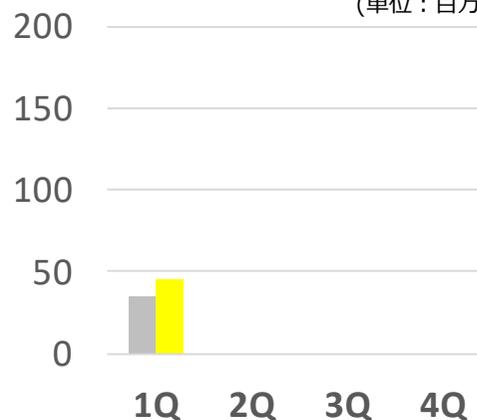
-



2.0%
売上構成比

■ 前期 ■ 今期

(単位：百万円)



・惣菜メーカーや菓子メーカー等の原料として使用されるホタテエキスの販売がメイン

(当社ブランド品 例)



ホタテエキス



利尿コンブエキス



カニエキス

● その他

(単位：百万円)

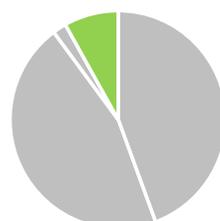
第1Q売上高

2020.4-6 140

2021.4-6 160

増減

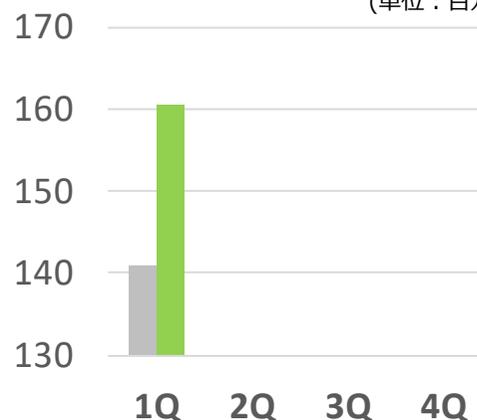
-



7.2%
売上構成比

■ 前期 ■ 今期

(単位：百万円)



・協力会社に委託して製造した商品の販売がメイン

・外食市場向けのガラスープ販売が好調に推移



豚白湯ガラスープMN-1

国産の豚骨、豚足、豚頭、豚脂肪を炊き上げた豚100%の白湯ガラスープ。**無菌充填方式**を採用した商品で、素材本来の香りや味わいをお届けできるようになりました。

無菌充填のメリットは、高温で長時間加熱殺菌するレトルト品と違い短時間で高温殺菌するため、食品本来の味わいや香りを最大限残した

「**作りたての味**」に近い状態を提供できる点にあります。

未開封・常温流通品のため、冷凍ストッカーの用意が必要ありません。

あら炊き醤油たれ

あら炊き仕立ての魚介濃厚つけ麺だれです。魚介の風味や香りを引き出すため、「北海道産真鱈のあら」「鮭の中骨」「焼いた鯛の頭」三種類の魚介のあらを釜で炊き出し、厨房で手間暇かけて炊いたかのような、豊かな魚介の香りと濃厚な豚骨感が味わえます。



淡麗醤油ラーメンスープ

魚介三種類（かたくちいわしの煮干し・とびうお煮干し・さば節）を醤油とともに炊きだし、さらに魚介エキス（ホタテエキス・はまぐりエキス・煮干しエキス）を加えることで、複雑みがありながら、澄んだ後味と余韻が残る味わいに仕上げました。醤油の「キレ」「うま味」にこだわった本品には、濃口醤油、うす口醤油、たまり醤油を使用しています。さまざまな店の味を食べ比べ、和弘食品ならではの「淡麗系」を表現しました。

1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

※ NB・・・ナショナルブランドの略。当社が独自に企画した商品を当社のブランド名で製品化し、販売することを言います。

● ※NB製品

(単位：千ドル)

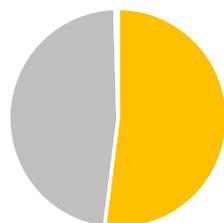
第1Q売上高

2020.4-6 252

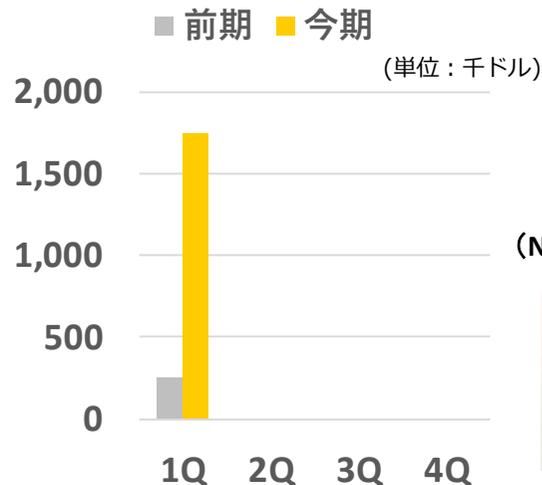
2021.4-6 1,743

増減

-



52.0%
売上構成比



・北米で大人気の「豚骨系」スープの売れ行きが好調に推移

・味噌系やスパイシー系の需要も増加中

(NB製品を使用したサンプル品画像)



Tonkotsu Ramen Soup Base
(豚骨スープ)



Tokyo Miso Ramen Base
(味噌スープ)



Spicy Miso Ramen Base
(スパイシー味噌スープ)

● PB製品

(単位：千ドル)

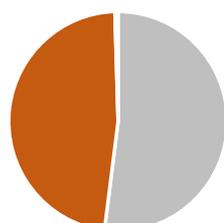
第1Q売上高

2020.4-6 400

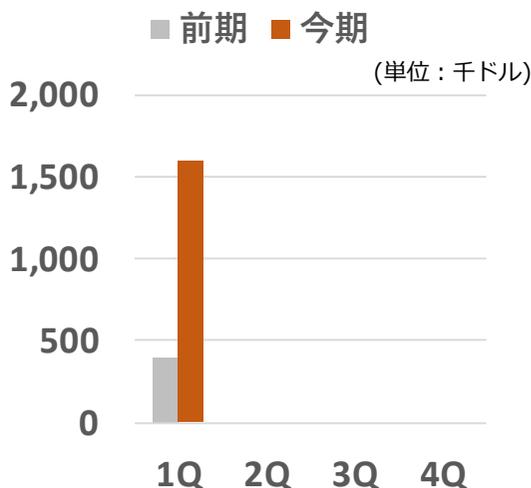
2021.4-6 1,595

増減

-



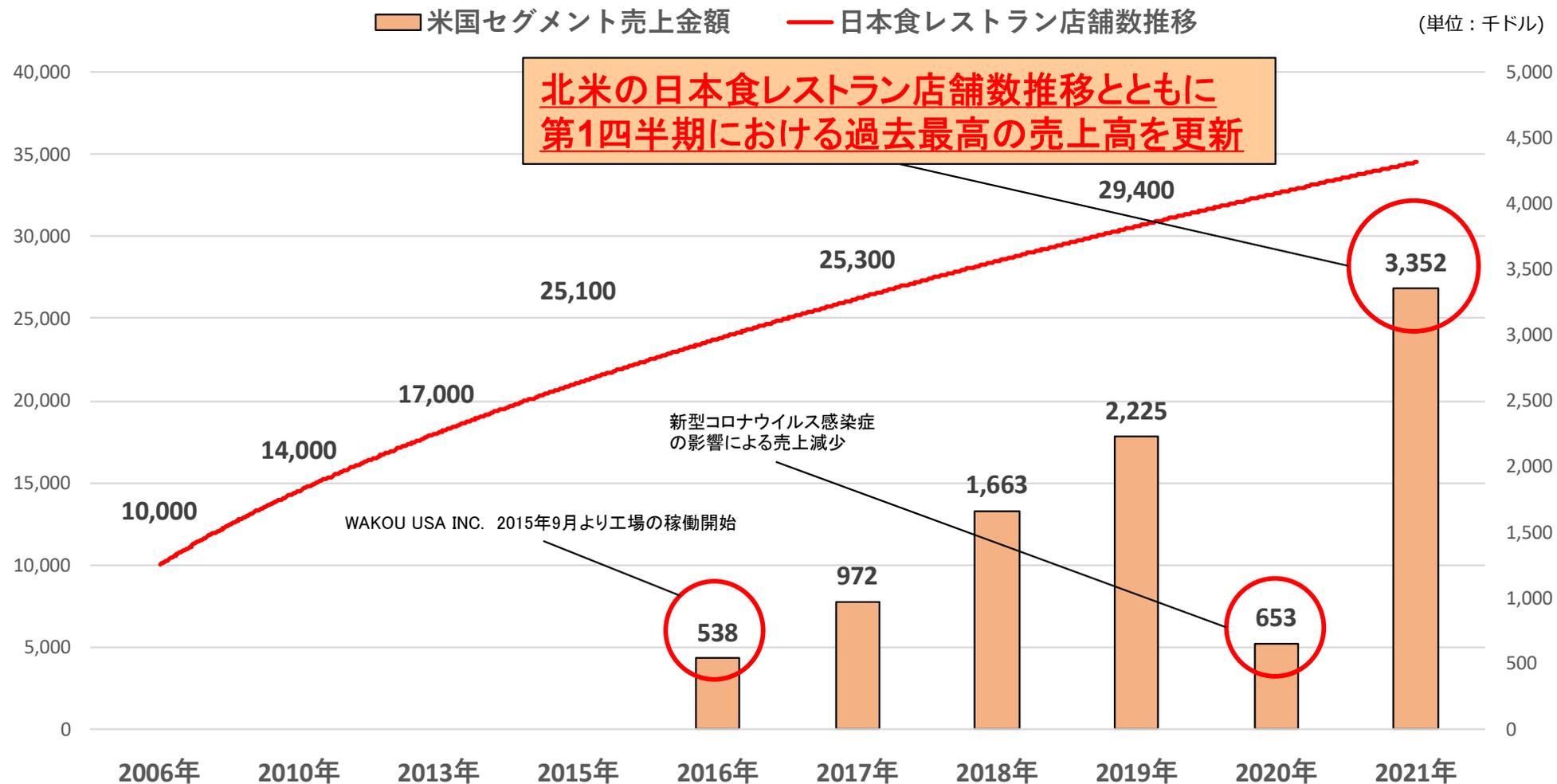
47.6%
売上構成比



・NB製品と同じく「豚骨系」スープの売れ行きが好調に推移

・ラーメン専門店の店内飲食再開などにより、需要が回復傾向。

日本食レストラン店舗数と第1四半期売上高の推移

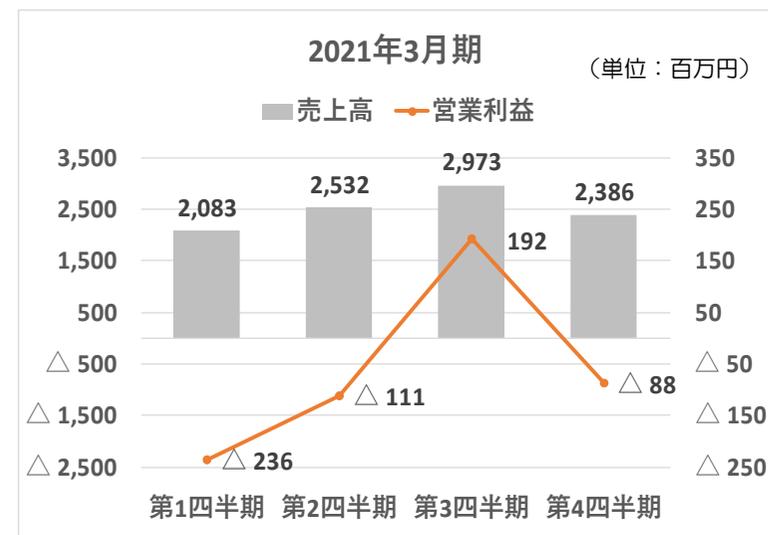
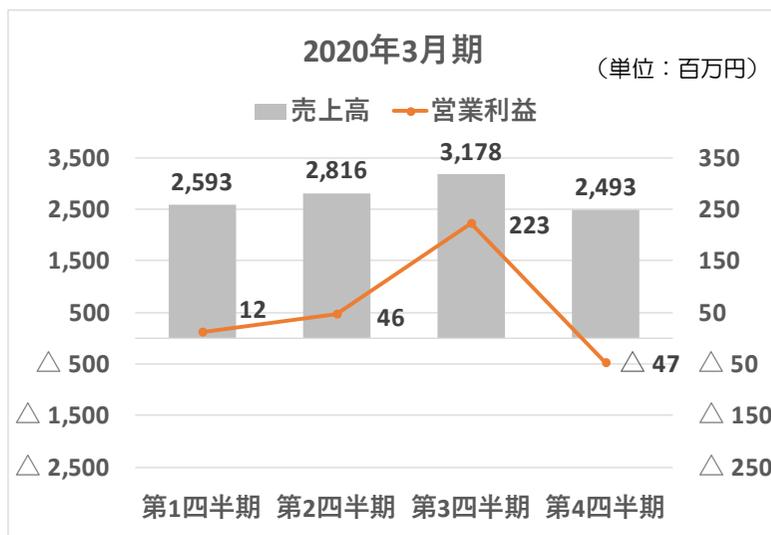


※2020年、2021年の店舗数は当社予測値

参考文献 農林水産省(2006)『海外における日本食レストランの現状について』 農林水産省(2016)『日本食・食文化の海外普及について』 農林水産省(2017)『海外における日本食レストランの数』
農林水産省(2019)『海外における日本食レストランの数』

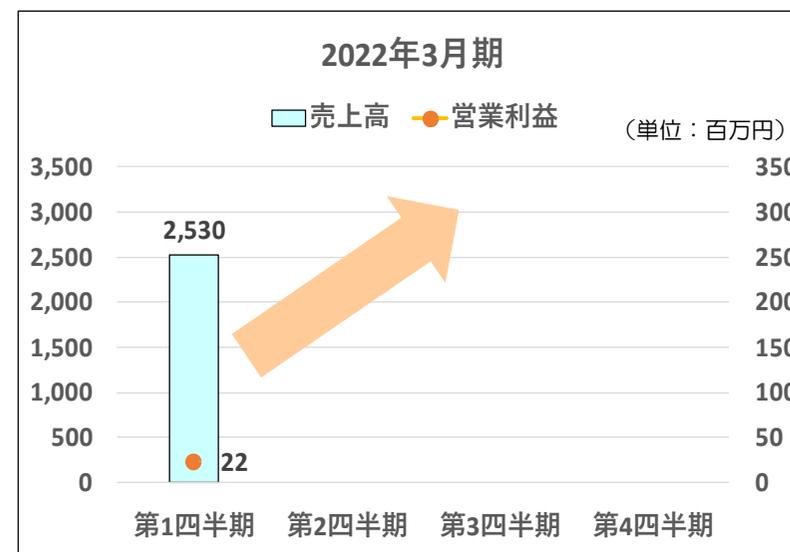
1. トップメッセージ
2. 2022年3月期 第1四半期 連結決算概要
3. 日本セグメント概要
4. 米国セグメント概要
5. 2022年3月期 連結業績予想

・過去2期のトレンドを踏まえると、第3四半期に向けて売上高・営業利益が上昇する傾向



(単位：百万円)

	2022年3月期 第1四半期実績	2022年3月期 通期業績予想	通期予想 達成率
売上高	2,530	10,644	23.8%
営業利益	22	187	11.8%
経常利益	12	210	5.7%
当期純利益	12	182	6.6%



- ◇本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の商品の募集・勧誘・営業等を目的としたものではありません。投資を行う際は、投資家様ご自身の判断と責任で投資なさるようお願い致します。当社の株式のご購入にあたっては各証券会社にお問い合わせください。
- ◇本資料の内容には、将来の業績に関する記述が含まれておりますが、これらの記述は将来の業績を保証するものではありません。
- ◇本資料の内容は、現時点で入手可能な情報や、合理的と判断した一定の前提に基づいて策定した数値であり、潜在的リスクや不確実性などを含んでいることから、その達成や将来の業績を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

本資料に関するお問合せ



IR担当：廣崎

TEL : 0 1 3 4 - 6 2 - 0 5 0 5

E-mail : IR@wakoushokuhin.co.jp